

第34回文部科学大臣杯争奪日整全国少年柔道大会

第15回文部科学大臣杯争奪日整全国少年柔道「形」競技会

第44回厚生労働大臣旗争奪日整全国柔道大会 準優勝!

11月16日(日)講道館にて第34回文部科学大臣杯争奪日整全国少年柔道大会が開催され、愛知県選抜団体チームは、先鋒：今井 雄都選手(稻沢柔道会)、次鋒：大野 陽菜選手(六郷道場)、中堅：水谷 公亮選手(小牧柔道会)、副将：長谷川 琴葉乃選手(瀬戸陶原道場)、大将：見田 輝選手(六郷道場)、監督：下山 徳大4段(笠寺支部)、コーチ：中村 太7段(大曾根支部)で参加した。

1回戦、昨年度準優勝の大坂府との対戦は、先鋒指導2で負け、次鋒引き分け、中堅引き分け、副将指導2で負け、大将合わせ技で負け0-3にて紙一重の試合内容であったが、あと一步のところで勝利を手にすることことができず初戦敗退となった。しかし試合中の選手、監督、コーチの、対戦相手への礼節や選手への対応などの行いを評価され『フェアプレイ賞』を受賞した。



大会結果は次の通り
優勝 宮崎県
準優勝 千葉県
第3位 茨城県
第3位 大阪府

続いて、第15回文部科学大臣杯争奪日整全国少年柔道「形」競技会が開催された。

競技方法は、まず各都道府県の代表48チームを4ブロックに分けて「投の形」(内股まで)の予選演技を行い、各ブロック上位2組が決勝戦に進出でき、決勝戦は計8組で行われ順位が決定する。

愛知県形チームは(取)戸松 戒斗選手(岡崎市柔道会)、(受)中嶋 彩央里選手(岡崎市柔道会)、監督 作田 新之助3段が挑んだ。

予選Aブロック(11チーム)8番目の演技となり、途中ミスがあったが71.8点の高得点を出した。しかし予選ブロック上位2組に入れず、決勝進出はならなかつた。

形選手の両名は5年生であるため、来年度再び出場しリベンジを果たしていただきたいと思う。

午後から第44回厚生労働大臣旗争奪日整全国柔道大会が開催された。



大会結果は次の通り
優勝 東京都
準優勝 兵庫県
第3位 新潟県

選手団の構成及び試合方法は、監督1名、選手3名(大将50歳代 中堅40歳代 先鋒30代以下)で、11地区(北海道、東北、関東、東京、北信越、東海、近畿、大阪、中国、四国、九州)より、選出された参段以上の選手の3人制で行われる団体戦のトーナメント戦で行われた。以前東海ブロックは、東海東部と東海西部の2チームが開催されたが、今回から東海4県で1チームの出場となった。

審判規程は、国際柔道連盟試合審判規程で行われるが、下半身への攻撃・防御が認められ、柔道の醍醐味が見られる大会となった。また、東海ブロックから審判員として夫馬 喜久治7段が参加した。

東海チームは、先鋒：六郷 雄平選手(愛知)、中堅：星野 紘輝選手(岐阜)、大将：三並 孝豪選手(岐阜)、監督：中村 太7段(愛知)で挑んだ。

初戦は、1回戦中国ブロックと東北ブロックの勝者、中国ブロックとの2回戦からの出場となり、先鋒一本勝ち、中堅一本勝ち、大将引分けの2-0にて勝利した。

3回戦となる北信越ブロックとの準決勝戦は、先鋒一本勝ち、中堅引き分け、大将一本負けの1-1となり代表戦に六郷選手が出場し一本勝ちにて勝利した。

四国ブロックとの決勝戦は、先鋒一本勝ち、中堅引き分け、大将一本負けの1-1となり代表戦に再び六郷選手が出場したが、試合途中負傷したため負けとなり準優勝となった。

優勝旗である厚生労働大臣旗を逃したが、2試合の代表戦を含む5試合に出場(内4試合一本勝ち)した六郷選手の活躍があり東海ブロックが7年ぶりの日整全国柔道大会にて準優勝を飾ることができた。

(柔道部長 中村 太)



六郷
試合
風景

大会結果は次の通り
優勝 四国ブロック
準優勝 東海ブロック
第3位 九州ブロック
第3位 北信越ブロック